

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2894700026		
法人名	社会福祉法人香寿会		
事業所名	グループホームしいの木荘		
所在地	兵庫県美方郡香美町香住区森61-1		
自己評価作成日	平成28年11月7日	評価結果市町村受理日	平成29年1月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 ライフ・デザイン研究所
所在地	兵庫県神戸市長田区菟乃町2-2-14
訪問調査日	平成28年11月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山や田畑に囲まれた自然豊かな中で四季の移ろいを感じながら、ご利用者一人ひとりの有する能力や個性を大切に自由にのびのびと楽しく生活して頂けるように支援します。年間を通して季節毎の行事や多種のクラブ活動を実施し、生きいきと喜びを感じられる生活を送って頂けるように努めています。特別養護老人ホームやケアハウス、デイサービスと併設し職員研修会、各種行事また緊急時や健康管理面等での協力体制が確立されており、職員のスキルアップやご利用者の安全・安心な生活の確立に繋がっています。職員は常よりご家族との連携を密にすることで、馴染みの関係性が構築されています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

①自立支援に留意した運営・法人理念(「人権尊重」「入居者目線」「生き甲斐のある生活」がキーワード)を基軸に、本人本位の「自立した生活」が実現できるよう、特に「会話」にウェイトを置いた運営を実践している。②選択肢の多いプログラム・法人のスケールメリットを活かした併設事業所(介護老人福祉施設)との合同行事(七夕まつり、夏祭り、そうめん流し、焼き芋大会、餅つき大会等)や事業所単独での季節行事・地域見聞録・買い物ツアーや多彩なクラブ活動(読書、喫茶、仮装、音楽、卓球、回想等)、地域の子供たちとの交流等を企画実践し、入居者は自己決定により参加し楽しい時空間を過ごされている。③家族・地域とともに・事業所で実施している様々なプログラム(季節行事や外出行事)において家族・地域の方々の参加・協力が多く入居者との大切な係わりが実践できている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

自己	者 第	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念及び事業所の運営方針を、毎日唱和すると共に、研修の機会を設けるなどして理解を深めている。尊厳を重んじ自己決定を基本として家庭的な雰囲気の中で暮らして頂いている。	法人理念を基軸に、「自立した生活の援助」、「集団の力を活用した相互援助の暮らし」、「家族とともに築く暮らし」の事業所テーマ達成のため、全職員が一丸となって取組んで支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の自治会長や運営推進委員より祭り等の行事の案内をいただき出かけている。社会資源を利用して買物ツアーや外出に出かけるなどして地域住民として意識して頂けるようにしている。	近隣商店・スーパー等の活用、季節行事開催における地域との連携(夏・秋祭り、ハートフルフェスタ等)、地域の子供たちとの七夕会、ボランティアの協力等、法人スケールと地域の力を有効に活かした運営が実践されている。	今後も、地域の方々の協力の下、地域における社会資源の一つとしての積極的な活動の継続に大いに期待をします。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で、利用者の状況や事業内容を報告すると共に率直な意見を求めるなどして意見交換し、認知症について理解して頂くように努め、福祉体験等で地域の中学生の受け入れ等も実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で意見交換の時間を設け各委員の方より広く意見を頂き、その内容を職員会議で検討し事業の推進に活かし地域の祭り等に参加した。	会議では、事業所情報の発信に終始することなく、ハード面の改善、地域交流、職員のメンタルヘルス・職員育成等、様々なテーマで意見交換等が行われており運営に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター主催の地域ケア会議に出席。また地域包括支援センターの職員も運営推進会議に出席して貰っている。介護認定調査等必要に応じて町担当者と連絡を取っている。	日常から、町の職員とは連携を深くとり、報告・相談等を行っている。また、毎月実施の地域ケア会議(地域包括支援センター主催、町の職員も出席)にも参加し、情報の共有、課題の相談・検討等にも取組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年度も職員研修の課題として取り上げ、職員相互で資料を作成し学習の機会を持って理解を深め職員間で意思統一を図っている。	研修・勉強会を通じ、職員は「身体的拘束等の弊害」について十分理解しており、日々のケアを事例検討で検証しながら、本人本位の日常が達成できるよう取組んでいる。玄関口は日中開放している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止も身体拘束と同様に今年度の研修の課題として取り上げ職員相互で作成した資料を基に学習・討議して職員間で虐待防止への意思統一を図っている。	研修・勉強会・事例検討を通じ、職員は「不適切なケア」のレベルからの払拭に取り組んでいる。また、職員のメンタルヘルスにも配慮し、「孤立化」しないようはかっている(親睦会等の開催)。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度等研修により全職員の理解を図り概要は理解できているが実践で活用して支援するまでに至っていない。今後も研修等で学習して理解を深めたい。	現在、権利擁護に関する制度を活用している方はおられないが、職員は研修を通じて制度活用が認知症高齢者への支援方策として有効であることを理解しており、状況に応じて家族等へ提案している。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約は入所契約書及び重要事項説明書等で説明を行い、不安や疑問点はその場で尋ねたり、後日納得できない事項があった時は電話等で納得して頂けるまで説明している。	事業所見学、アセスメント、質疑応答等により疑問点・不安感なく、入居後にも不具合が生じないようにして契約を締結している。契約時には関連書類を丁寧に説明し理解を頂いている。	契約時や入所後に良く受ける質問等の項目を集め、「Q&A集」を作成してみたいかがでしょう。職員研修にも活用ができる事と思います。
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問時や電話等で家族等の意見や要望及び運営推進会議での家族代表委員等の意見を職員会議で検討し事業所だけでなく法人内各事業所の協力を得ながら要望等に応えられるように努めている。	運営推進会議、行事参加時、来訪時、電話、意見箱等、様々な機会を設けて意見・要望を聴き取っている。今年度は、家族よりの要望に応え、玄関口に庇を設えて出入りの利便性を高めた。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人内全体の事業所が毎月1回集まって運営委員会を開催している。その会議で事業所の現状報告と各事業所間の情報の共有を図ると共に職員の意見等を検討する場としている。	月例会議の場で職員からの意見・提案を吸い上げる体制が整えられている。また、管理者との個別面談(レビュー)も実施されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は常に職員の意見に耳を傾け職場環境や労働条件の改善に努め職員各自がストレスを感じない様に向上心を持って、いきいきと働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人・事業所内研修及び外部研修への機会を設け、職員個々及び事業所全体の資質の向上に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月1回開催される「香住区担当地域ケア会議」に出席し、情報交換・情報収集を行い、職員会議等で報告・検討してサービスの向上を図っている。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始までに本人及び家族と共に事前面接を行い本人の生活歴や要望、不安に思っている事項等を伺いながら一つひとつ説明して納得して頂けるように対応している。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接で要望や不安事項を伺い説明している。後日不明な事項ができた場合、電話連絡または自宅訪問等行い理解して頂けるように努めている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接等で得た情報以外に疑問点等が出来た時は利用開始までに本人と家族に伺いアセスメント表を作成して必要なサービスの提供が出来るように努めている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を通して尊厳を持って対応し、生活リハビリを基本として自分で出来ることはして頂き自尊心を傷つけないように自己決定に基づき対応している。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人が体調不良になった時等家族に電話連絡を行い、常に本人の状態を把握して頂き本人と家族の関係を大切にし、受診等相談・協力して共に本人を支援している。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望により以前勤務していた所に外出支援して馴染みの人とコミュニケーションを図ったり、地元のお祭りに出かけたり、希望により家族と連絡が取れるように支援している。	家族との外出(買い物・食事・通院・墓参り等)、友人・知人の訪問、以前の勤務地への訪問、出身地区へのドライブや祭り見学等、今迄の生活感ができるだけ長く継続するよう支援している。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事等の軽作業やレクリエーションを通して、お互い出来ることをして頂き、出来ないところは利用者同士支え合いながら行う様に支援している。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方の家族等に電話連絡して本人の近況を伺ったり、入院時は病棟に見舞いに行き必要により相談・援助に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活を通して、本人に希望を伺いながら全て自己決定に基づき、本人に寄り添うように支援している。	入居者一人ひとりとの係わり(会話、言動、仕草・表情等)の中から、ご本人が望む日常となるようその思い・意向を汲み取っている。キャッチした情報は、申送り・連絡ノート等で全職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接で本人や家族から得た生活歴等は概況表に記入。都度家族等の面会時に新たに得た情報等も記入して全職員が共有して把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で都度本人の状態の把握を行いながら、現存機能や心身の状態を把握して職員会議等で全職員が意見交換し、より正確に把握できるように努めている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活の状態を見て把握した本人の課題を全職員が検討、また家族等の要望や意見を伺い、より良く暮らすためのケアが現状に合ったものであるようにするために介護計画を作成している。	入居者の思い・意向、家族の要望に職員の意見を踏まえ、ご本人の「今」にマッチした介護計画を作成している。毎月実施のケアカンファレンス・モニタリングの内容をプランの見直し等へ繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活で実践したケアや本人の状態を個別記録に記入。職員間で情報の共有を図りケアの統一やより現状に即した介護計画が作成できるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の思いや要望に耳を傾けて、その思いや要望が適うように柔軟なサービスの提供が出来るように努めている。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会長や地域の方の協力のもと地域のまつり等の行事に参加。またボランティアの協力で行事等行い地域の児童等と交流し楽しい時間を過ごして頂くように支援している。		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、ご本人・ご家族の希望を伺い、近くの病院の主治医か民間のかかりつけ医にご家族等の希望通りに支援している。	定期受診・急変時の対応も家族と協同しながら協力病院へ通院同行している。入居前からのかかりつけ医を継続している方もおられる。また、併設事業所の医師がサポートしてくれる体制も整備されている。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要時、併設している特養看護職と連携を図り相談後、一人ひとりの方が状態にあった適切な受診ができるように支援している。		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご本人が入院時、情報提供書を病院側に提供。入院中は面会等によりご家族・病院関係者と連携した状態の把握に努めている。退院時、病院主催のケアカンファレンスに出席及び情報提供書により退院後のケアに活用している。	打撲による入院(1日のみ)した方がおられた。退院時には、病院より情報を入手し、ホームでの生活に不具合が生じないよう取組んでいおり、現在体調不良もなく以前と同様に過ごされている。	
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時は、ご家族にご本人の現状を報告すると共に当事業所で出来るケアの範囲を説明。ご家族・主治医・職員間で連携し、ご家族の要望に添った支援を最後まで続けられるように取り組んでいる。	重度化・終末期の状況が生じた場合には、事業所で「できること」「難しいこと」を明確にし、ご本人にとって望ましいケアとなるよう関係者(本人・家族、医療従事者、事業所)で相談・検討しながら取組んでいる。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し全職員が即応できるように周知徹底を図っている。消防署の指導によるAEDを用いた救命講習会を開催し急変時に対応できるように取り組んでいる。		
35	(17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を含めた防災訓練を毎年実施し、災害時は併設の施設と協力体制を築いている。運営推進会議等を通じて地域の協力をお願いしている。	併設施設と合同で定期(年2回)の通報・消防・避難訓練(日中帯・夜間帯想定)を実施している(消防署の立会いあり)。有事には近隣住民の協力が得られる状況にある。水・非常食も3日分備蓄している。	

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を保持した言葉かけに努め職員研修等で基本的人権の尊重・プライバシーの保護等人権についての学習を行い職員の意識の向上を図り、日常の言葉かけ・対応は自己決定により支援している。	入居者個々人の現況及び自尊心・羞恥心に充分配慮しながら、今迄培ってこられた事柄(技能・趣味・習慣等)をご本人が望むタイミングで体現できるよう支援している。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活での言葉かけはご本人の希望や思いを表現できるように対応している。自己決定によりその思いや願いがかなうように支援している。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々一人ひとりの状態把握を行い、その日の状態に合わせながら無理強いないで個々のペースを守りゆったりと過ごして頂けるように努めている。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的に自分自身で選んだ衣類等着用して頂いている。どれが良いか等聞かれたらアドバイスをし身だしなみやおしゃれが楽しめるように支援している。		
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの今ある機能を発揮して頂くため、希望の献立を皆さんにお聞きし、その献立に添って食事の準備から片付けまでそれぞれの方の今ある機能を使って頂き職員と共に楽しめるように支援している。	全食手作りの「食」を提供している。献立作りから食材購入、下拵え、洗い物等、「できる・やりたい部分」を職員と一緒に行うようにしている。月例での料理クラブや手作りおやつ作りも楽しみ事となっている。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の献立は栄養士が栄養や食物繊維等考慮した献立により食事を作っている。一人ひとりの嚥下機能等見ながらキザミ・ミキサー食とし、水分にはトロミを付けて全量摂取して頂けるように支援している。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前後に嗽や歯磨き、義歯洗浄を勧めご本人の今ある機能を発揮して頂きできることはして頂き出来ないところや不十分なところは支援して口腔内の清潔に努めている。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの尿・便意により言葉かけ及び希望によりトイレに案内。失敗が時々見られる方は排泄チェック表により排泄パターンを把握。時間的考慮によりトイレに案内し失敗の軽減及び自立支援を行っている。	現況及び排泄パターンとそのサインを把握し、ご本人にマッチした方法(2人介助あり)でトイレでの排泄が行えるように支援している。夜間帯もトイレ排泄を基本としているが、状態に応じ、ポータブルトイレ・パット交換の方もおられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中を通して水分摂取に努め、食事は野菜を中心に食物繊維を多く摂取して頂けるように献立を作っている。歩行訓練・散歩等の運動を勧め、排便時は必要により腹部マッサージに努め自然排便を図っている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の希望を伺いながら同意を得て浴室へ案内している。洗身・洗髪等自分でできることはして頂き出来ないところは支援している。ゆったりと浴槽に浸かって頂き自分のペースで入浴出来るように努めている。	週2回以上の入浴を基本に、毎日入浴の方もおられる。ゆっくりゆったりとした時間となるよう職員との会話も楽しんでおられる。季節湯(柚子湯、菖蒲湯等)も喜んでおられる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の体調や希望を伺いながら自己決定に基づき、都度居室へ案内して休息や穏やかに就寝して頂けるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は個々の薬の目的・用法等把握。ご本人と薬袋の確認により誤薬の防止を図っている。副作用等の理解に努め異変時は主治医等と速やかに連携を図るよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの今ある機能が発揮できるように生活歴を把握。食事・洗濯等の家事などの軽作業を勧め個々の能力に合った役割を持って頂き生きがいに繋がるように支援している。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望により馴染みの場所等へ外出支援を行っている。気候の良い日は施設周辺の散歩や花見・紅葉狩り等の季節毎の行事や買物・外食等家族などの支援を受けながら外出支援に努めている。	公園への散歩や買い物、草花・野菜への水遣り等、計画的に外気に触れる機会を設けている。家族とともに出かける地域見聞録や買い物ツアー、ハートフルフェスタ参加、季節の花見や出身地区へのドライブ等、希望に応じた外出も実施している。	入居者のADLの低下や個々人の想いも違い、個別対応にも工夫と労力が求められることと察しますが、今後も今迄同様の「利用者の思いに沿った支援」の継続に期待をしています。

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の要望により買物に出かけたり、スーパーマーケットなどで希望の品物があれば現金を渡して自分で支払をして頂くように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により自宅や知人等への電話を取り次いだり、年賀状や手紙などで自由に連絡が出来るように支援している。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	静かな自然環境の中にあり散歩等で四季折々を感じながら暮らしていける。共用箇所の食堂・ホール・トイレ・廊下・浴室等全てバリアフリーで広くゆったりとして居心地良く過ごせるように配慮している。動線には物を置かず整理整頓に努めている。	事業所周りの花壇の草花や玄関口の季節飾り、ホールの天窓(吹き抜け)からの自然光は季節を感じ取ることができる。リビングのソファスペースや生け花・壁面の飾りつけは憩いの時空間を演出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの要望を伺いながら食堂のテーブル席及びホールのソファ席へ案内して日々の希望により一人で過ごされたり、入居者同士で会話等されたりして個々の思い通りに過ごせるように支援している。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が以前から使用していた馴染みの深い物や家族の写真や過去自分が手掛けた作品等家族の協力を得ながら落ち着いて安心できる居場所になるように努めている。	使い慣れた馴染みの大切な品物(筆筒、テレビ、家族写真、仏壇等)を持ち込み、個々人にマッチした居心地の良いゆったりとした居室となるよう支援している。居室には洗面台が設置され衛生的である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが今ある機能を発揮できるようにトイレや居室等大きな字で分かりやすく表示して居室等間違えても直ぐに気が付くようにしている。水道、ドアの開閉等自分の力で使用できるように工夫している。		